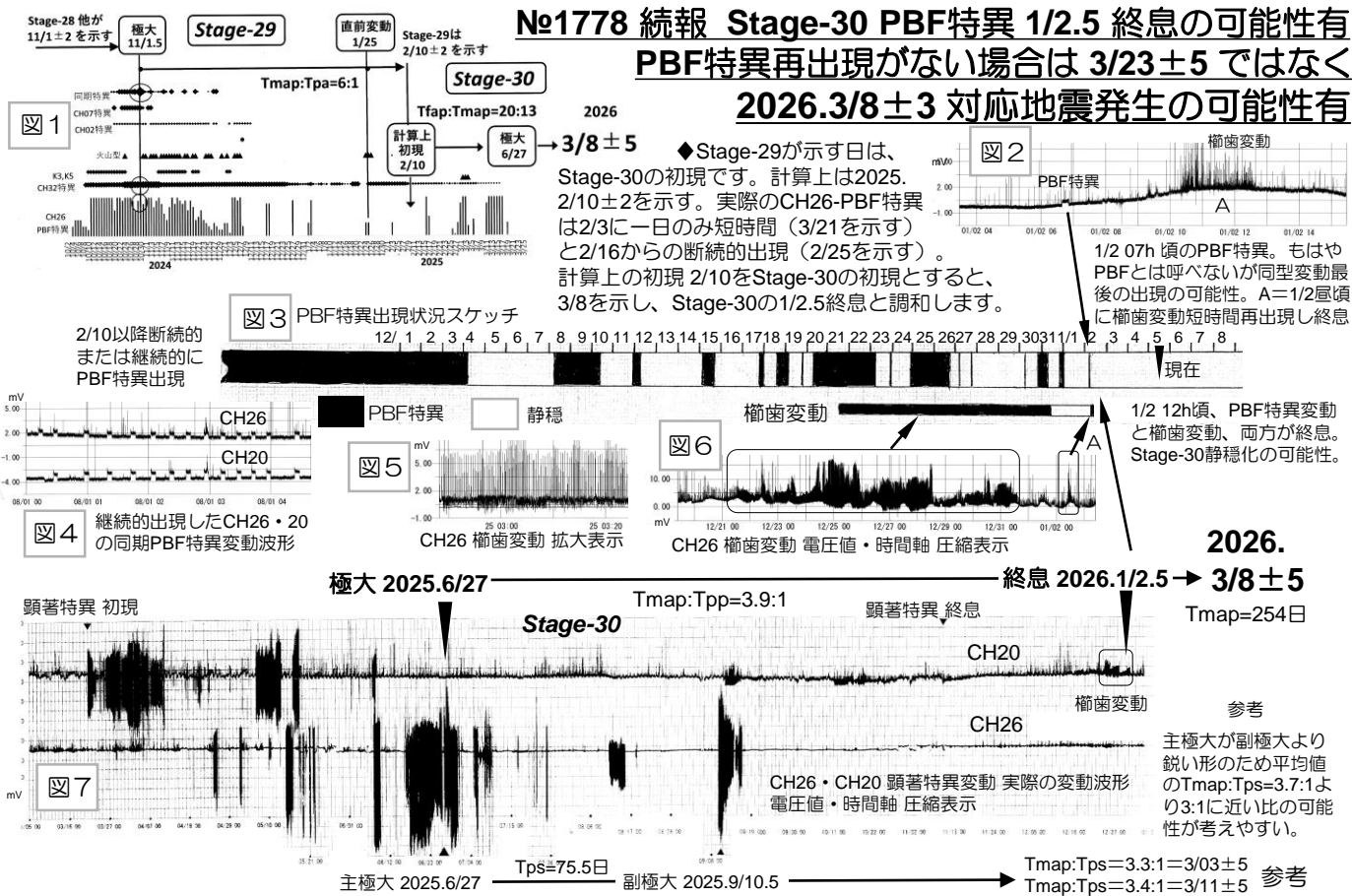


※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され(前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5)、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援(情報配信参加)を賜りたくお願い申し上げます。

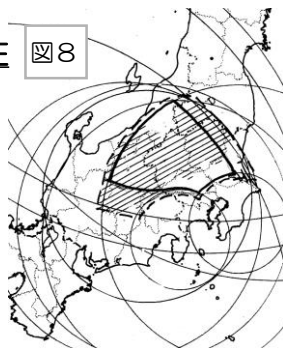


PBF特異・櫛歯変動 共に 2026.1/2.5 終息

1/8 迄に再出現無い場合は 1/2.5 終息確定 → 3/8±3 対応地震発生の可能性

◆表題のとおり、継続・断続的に出現していたPBF特異変動と、12/21から出現したハヶ岳の複数観測装置の櫛歯変動、どちらも1/2の頃に終息。その後現在まで再出現はありません。櫛歯変動は単独で別活動の可能性まで考えましたが、1/2屋前から短時間再出現し終息。まだ終息から3日しか経過していないため断定はできませんが、1/8午後迄に再出現が無い場合は、完全終息と認識され、上図のとおり、3/8±3 対応地震発生の可能性が考えられます。

- 推定領域: 図8の点線領域内=大枠推定領域
太線領域内=可能性が考えやすい
斜線領域=火山近傍で考えやすい
- 推定規模: M8.0±0.3 または複合地震
- 推定時期: 2026年3月8日±3 の可能性有
※但し、1/8迄にPBF特異再出現あれば修正
※直前変動が観測された場合は若干修正
- 推定地震種: 日本列島陸域地殻地震
- 推定発生時刻: 午前9時±2 or 午後6時±3



◆東北沖地震の前兆変動と重複して出現した変動群(No1778の別形態前兆変動認識)からは、様々な関係で鑑みましたが、3/23±5 より早い時期は求められませんでした。今後PBF特異が再出現した場合は、3/22±5の可能性として再検討が必要ですが、昨年末から出現した櫛歯変動も、櫛歯変動の初現・極大・終息からは発生時期は示していないため、別形態前兆変動も発生時期を示していない出現である可能性も考えられます。

◆1/8迄にPBF特異変動や、櫛歯変動等が再出現しないか慎重に観測を続けます。再出現ない場合は上記のとおりが考えられます。